

「世界の平和と国連の役割」

2005/5/14

志村 尚子 元津田塾大学学長・元顧問

はじめに

- 1 国際連合の理想
- 2 国連の現実
- 3 国連の可能性
- 4 日本と国連平和活動
- 5 国連による平和と安全の維持についての今日の課題と問題点

「日本の安全保障～活動の現場から～」

吉田正紀 1等海佐 笠松誠 2等陸佐

はじめに

- 1 安全保障とは？
- 2 我が国防衛力の意義と役割の変化
- 3 活動の現場から
- 4 終わりに

女性のための政治スクール 5 / 14

『世界の平和と国連の役割』

元津田塾大学学長 志村 尚子氏

「人類の歴史は、戦争の歴史だ」という言葉からスタート。戦争をはじめて非合法化しようとする動きや国際連盟の挫折、その後の国際連合の理想目的を改めて認識できた。国際平和と安全の維持が第一目的である。その後語られた、国連の常任理事国の話は、今正にタイムリーな話題で興味深く聞いた。停戦監視団、平和維持軍、国連緊急軍、PKO、多国籍軍、有志連合などなど3原則を超える行動は本当にはないのだろうかと思いつつ聞いた。いずれにしても、これからの国の役割は、予防外交と人間の安全保障だと感じた。国のしっかりとした指針が、私達一人一人の生活に繋がっている。県内の基地から出発する様子を見るにつけ、“大丈夫？”と思っていた私が出たことを思い出す。

『日本の安全保障～活動の現場から～』

1等海佐 吉田正紀氏 2等陸佐 笠松誠氏

制服姿で「安全保障とは？」と語り始めた。。その概念や多様性、世界観と価値観の相違、新しいそのさまざまな概念などを熱心に語り、わが国の防衛力の意義と役割の変化と続いた。

脅威の主体がはっきりし、守るべき対象が明確であれば、それなりの対応ができると感じたが、自衛隊とか軍とかの言葉自体にアレルギーがある私は、話を聞きながらすっきりこないところも多々あった。「存在すること」に意義がある自衛隊。。など自衛隊員自身も、日本の現状の矛盾に悩んでいることを生の声で伺って、人間くささが伝わってきた。イラク復興活動支援の話や日本にしかできない支援を実行していることを知った。現地に入り現地の人達が1番進むことをやってきたと笠松氏の話はとくに説得力があった。自分達の価値観で、任務を果たしているだけ。。憲法改正？とか何でも、日本政府のはっきりとした指針がほしいと言う言葉が印象的だった。抑止としての軍備？？必要なんですかねえ。。。。平和とは、単に戦争のないことではなく、安全を保障する力があるかどうかということなんでしょうか。。？

平和に慣れきっている日常の中で、人間の安全保障を考える時、意識して危機感を持つことが必要だ。このところ話題の個人情報漏洩などもその1つかも。